

# 管路機能の持続化へ コンサルタントの提案

## マネジメント支援ツール

日本水工設計 技術企画部アセットマネジメント推進課 鈴木淳、門田文仁

管路施設に限らず、下水道事業のマネジメントを行ううえで、建設・維持管理情報等のデータベース化は不可欠です。下水道施設のマネジメントプロセスとしては、第一に下水道台帳管理システムに登録されている管理情報をベースに下水道施設のライフサイクルをシミュレーションし、想定される長期修繕・改築の事業量を把握するステージがあります。次いで、予算等の条件から事業実施の可能性について確認を行い、必要に応じて実施時期の調整を行います。実施時期の調整の際、行政サイドとして実施時期の調整に伴うリスクを一切許容しないケースもあるかと思いますが、通常は一定のリスクを保有しながら財政部局との事業量調整を行うことが一般的と考えます。リスク評価は、わかりやすく定量的な指標を用いて、相対的な評価が可能に行います。事業量調整後は、長期財政見通しについてシミュレーションを行い、長期財政の収支バランスについて最適化を行います。従来の下水道台帳管理システムでは、これら一連のマネジメントを実施可能な機能が実装されていませんでしたが、日本水工設計では、平成22年度にアセットマネジメントを想定したマネジメント支援ツールである AssetMan (平成24年3月現在、商標登録出願中) を福岡地区水道企業団様へ導入いただいております。現在は、国内主要都市に対して下水道事業を対象とした AssetMan導入業務を実施の状況にあります。また、同支援ツールでは、下水道長寿命化計画策定を目的とした機能についても開発に着手しており、早期には下水道施設の長寿命化計画策定から下水道事業のマネジメントまでをトータルサポート可能な体制が構築されます。詳細は、当社HP (<http://www.n-suiko.co.jp/>) をご参照ください。

